

2026年3月期 連結決算サマリー



Internet Initiative Japan

株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)
プライム市場(証券コード:3774)
2026年5月14日

事業等のリスク

本資料の記載のうち、過去または現在の実態に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。

FY25決算総括・中期計画進捗

単位:億円
+%, △%, YoY = 前年同期比
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

FY25決算総括		
大型サービスインテグレーション獲得が恒常化、ストック売上継続伸長 インフラ活用でNWシステム基盤供給との展開・グローバルビジネス拡大等 中長期成長加速に向け事業領域を拡張中		

売上高	3,454.0億円	+9.0% YoY
営業利益	348.4億円	+15.7% YoY
当期利益	241.9億円	+21.3% YoY
1株当たり配当金(年間)	39.00円	+4.0円 YoY

NW サービス	<ul style="list-style-type: none">◆ 新規サービス開発・既存サービス機能強化、販売体制強化等で積上げ注力<ul style="list-style-type: none">・ FY25売上: 1,787億円・+9.9% FY25粗利額・率: 484億円(+7.0%YoY)・27.1%(△0.7pt YoY)◆ NWサービス月額積上げは成長強まるも期待値までは至らず◆ サイバー攻撃高度化等に伴いセキュリティサービス売上拡大継続 FY25: 409億円・+13.8%
SI	<ul style="list-style-type: none">◆ 旺盛なNW構築等大口需要継続、SI運用保守大幅増収<ul style="list-style-type: none">・ 売上: 構築 679億円・△1.3%(前期大型案件の反動減あり)、運用保守 958億円・+16.0%・ 受注: 構築 840億円・+38.1%、運用保守 1,231億円・+26.9%・ 期末受注残高: 構築 319億円・+102.1%、運用保守 1,270億円・+27.4%◆ SI運用保守積上げ・売上規模増加等で粗利率向上<ul style="list-style-type: none">・ FY25粗利額・率: 263億円(+20.9%YoY)・16.1%(+1.7pt YoY)◆ 大型サービスインテグレーション案件*獲得恒常化、100億円超案件2件獲得<ul style="list-style-type: none">・ FY25獲得数・総額: 19件・620億円、大型案件からのFY25売上 一時: 97億円、月額(NWサービス含む): 145億円・ フラグシップ案件: 官公庁向けNWシステム構築・運用 160億円(2Q25)、追加分 25億円(4Q25)海外GPU基盤構築案件 120億円(4Q25) 等
FY25 トピックス	<ul style="list-style-type: none">◆ 自社サービス需要拡大に備えデータセンター拡充<ul style="list-style-type: none">・ 白井DC3期棟着工(25年6月)、松江DCシステムモジュール棟運用開始(25年6月)◆ IoT事業派生機会ですニーセミコンダクタソリューションズ(株)と合併で子会社センシフィア設立(26年2月)、土壌水分等精緻計測との特異技術でセンサー事業展開◆ 従業員数は堅調増加、低水準離職率(FY25: 4.5%)継続◆ ディーカレットDCP: トークン化預金概念の社会浸透継続で事業化案件増加中

中期計画(FY24-26)進捗		
事業領域拡張等で事業成長加速を實踐中 中計業績ターゲットに売上は超過推移・営業利益は下振れ推移も 中長期の利益スケールメリット発揮に向け展開中		

FY23 (前中計最終年度)		FY25 (中計2年目)
■ SI	1,218	1,636
■ NWサービス	1,513	1,787
1.3倍		
1.2倍		
大型案件獲得		
FY23 10件・338億円	1.9倍	FY25 19件・620億円
・ 大型案件からの構築・運用売上伸長 FY23: 一時 54億円、月額 31億円 FY25: 一時 97億円、月額 145億円		
月額ストック売上		
FY23 2,233億円	1.2倍	FY25 2,745億円
・ 国内DX進展のなかNWサービス・システム運用とも堅調増加、大型案件月額寄与も進展		
総セキュリティ売上(NWサービス+SI)		
FY23 348億円	1.4倍	FY25 484億円
・ サイバー攻撃高度化に伴い需要加速 ・ アセスメント・コンサル等の総合的セキュリティビジネス拡張へ		
グローバルビジネス		
売上 FY23 353億円	1.3倍	FY25 457億円
※主にSIに計上 ・ 国内企業向けグローバルNW構築で相乗価値発揮 ・ 海外DC構築・PTC大型案件等も牽引		
モバイル総回線数		
FY23 約483万回線	1.3倍	FY25 約640万回線
・ IoT用途の法人モバイルが増加牽引 ・ 自社販売・他事業者提携で個人向けも堅調増加		
マネジメント		
社外役員比率 FY23 43.8%		FY26予定 50.0%
・ 社長交代・新経営体制移行(25年4月) ・ 女性役員比率 FY23: 18.8%、FY26予定: 28.6%		
人的資本		
FY23末 4,803名	1.2倍	FY25末 5,533名
・ 事業拡大に沿い人員拡大継続 ・ マネジメント育成等人材強化に注力 ・ 従業員満足度高水準を継続		
フリーキャッシュフロー		
FY23 229億円		FY25 241億円
・ 複数年大型案件で運転資金増加も徐々に回収進展 ・ 事業拡大で営業キャッシュフロー増加中		
純資産		
FY23 1,258億円	1.3倍	FY25 1,580億円
・ 利益積上げで資本基盤を拡充 ・ FY25 ROE: 16.2% ・ 白井DC等へ資金投下		
NWサービス価格改定 24年10月: VMware対応で広範囲、26年4月: 一部NWサービス データ活用ビジネスフィージビリティ遂行中、企業・組織横断のデータ連携「データスペース」の検証実施(26年4月)		

*期間総額10億円以上の案件

FY26事業計画

単位: 億円
+%, YoY = 前年同期比
当期利益は親会社の所有者に帰属する利益を表示

売上高			営業利益			当期利益			1株あたり配当金			
FY24 実績	FY25 実績	FY26 見通し	FY24 実績 (9.5%)	FY25 実績 (10.1%)	FY26 見通し (10.0%)	FY24 実績 (6.3%)	FY25 実績 (7.0%)	FY26 見通し (6.5%)	(単位:円)	FY24 実績	FY25 実績	FY26 見通し
3,168	3,454	3,850	301	348	385	199	242	250	ROE: 15.8%	35.00	39.00	43.00
+9.0%	+11.5%		+15.7%	+10.5%		+21.3%	+3.4%		■ 期末	17.50	19.50	21.50
									■ 中間	17.50	19.50	21.50

事業拡大好機としてサービスインテグレーション戦略拡張

- 従来領域にサイバーセキュリティ対応ビジネス強化・情報システム部門アウトソース需要対応等を上乘せし拡張
- 売上大幅伸長・スケールメリット発揮・クロスセル強化で利益向上を展望

NW技術・運用力で競争力一層発揮 新サービス開発、NWシステム基盤の改善を継続

- 自社NWインフラ活用し特定業界・領域への最適プラットフォーム提供で差別化、運用力で付加価値発揮
- 中長期成長ドライバーとの新NWサービスを継続開発中
- NWシステムインフラ基盤の増強・再構築含む最適化を継続遂行

AI事業戦略を加速 NWサービス事業者としてメリット最大享受

- 中長期でNWサービス基盤へのAI適用・顧客向け付加価値発揮
- 全社AI活用での生産性向上で人的資本ボトルネックの解消
- 顧客向けAI基盤ソリューションのSI・運用提供

FY26重要施策

SI・各サービスプロダクトの提供から 統合サービスオファリングへ

NW・システム インフラ運用が事業・技術基盤



既存事業の強化・重点領域の売上成長

アセスメント・コンサルを含む
統合セキュリティビジネス等で
コア事業の展開を加速

自社NWインフラ活用で
業界・領域毎に最適な
NW・システム基盤を
組み立て提供

大口NW更改・情シス部門運用
アウトソース需要等で大型サー
ビスインテグレーション継続獲
得・ストック売上伸長

市場情勢・顧客需要に応じた
NWサービススペック・
ラインアップの継続拡充

将来成長へ向けた取り組み

AI活用での効率化・
ソリューション提供等による
AI enablement の実践
FY29末までに全社業務の
約30%をAIに代替

人的資本育成強化に注力、
TCFD・SSBJ対応等で
サステナブルな事業運営の
継続補強

インフレ対応への継続インプ
リ賃上げ含む人的資本投資継続

収益性・事業基盤の強化

AI活用前提の
サービス運営基盤
次期中計に向け
最適な事業基盤の順次実装

IIJの事業戦略をAIで加速

株式会社インターネットイニシアティブ

AI関連のこれまでの取り組み

AI導入推進室*1
AI社内活用の整備、試行
IIJのAI活用における技術開発の中核
(新たなIIJサービスモデル、AI駆動開発、AIプラットフォーム整備、AIバックボーン開発)

*1: AI導入実験室として2024年11月設立
(2026年4月改称)

AI事業推進室
顧客向けAIソリューション開発
PFCI*2との合併によるAIプラットフォーム開発
AI活用による情シス業務効率化ソリューション

*2: PFCI : Preferred Computing Infrastructure
(IIJ、PFN、三菱商事による、AI向けクラウドサービスを提供する合併会社として2025年1月に設立し2026年4月よりサービス提供開始)

**全社横断したAI戦略の
立案と実装タスクフォース
による強力な推進**

AIデータセンタ
AI基盤利用を見据えた水冷Ready設計の
白井DCC3期棟が2026年度運用開始予定
AI基盤向けモジュール型エッジデータセンタ
(DX edge Cool Cube) の提供開始*3

*3: 河村電器産業との共同開発
(2026年3月販売開始)

AI利活用WG
2024年1月よりWGの活動開始
全社横断した生成AI活用のための情報共有
生成AI利活用ガイドライン等の環境整備

AI戦略の基本認識

IIJにとってAIは単なる業務効率化ツールや一部サービスの付加機能ではなく、
事業運営そのものの基盤技術として組み込む



「個人の暗黙知」から 「会社の資産」へ

IIJが長年にわたり培ってきた高い技術力・運用力は、現場での経験や判断力に支えられてきた。こういった「個人の暗黙知」をAIによって「会社の資産」に変えていく

社員の能力を最大化

欧米企業のようにAI効率化による社員数の削減を求めるのではなく、同じ人員でより多くの、より高度化された、よりスピード感のある価値を提供することが目的

多様化する ネットワークサービスの 効率化・付加価値創造

IIJには100を超える多数のネットワークサービスが存在しており、AIによる開発・運営の効率化を行うだけでなく、AIをベースにしたリストラクチャリングをすることで顧客ニーズに柔軟に追従できる価値を実現する

AIを前提に、IJの技術力を無限大に。 新たな価値創造へ。

IJは、AIネイティブな社会インフラ・サービス提供企業として生まれ変わります。

技術力の資産化

個人の暗黙知になっているIJの技術力を
AIで資産化し、レバレッジを効かせる



AI前提で継続進化

AIと人との調和により、サービス開発や
運用、業務が継続的に進化

全社AI戦略の実行を構成する4つの中枢要素

AI前提のサービスアーキテクチャ

マイクロサービスを基本とし、設計・開発・運用・改善の各フェーズにAIが組み込まれることを前提にサービスを再設計。顧客要件変更やサービス組み替えに柔軟に対応可能にする。

AIOps*を「効率化」ではなくサービス差別化の源泉として位置付け。

* AIOps: AIを活用して運用を高度化するアプローチ

AI駆動開発・AI駆動運営

(Internal First)

IIJ自身がAIの最大の利用者・実証者となり、開発・運用・営業・管理業務をAI前提で再設計、実装を行う。

業務知識・運用ノウハウをAIで形式知化し、再利用可能な資産へ転換することで従業員のレバレッジを最大化。

相互連携

全社共通AIプラットフォーム

部門ごとのAI乱立を防ぎ全社で標準化されたAI環境を提供。

認証・認可・監視・ログ・ガバナンスを組み込んだ共通基盤として機能。動的なAIエージェントの実行環境、機微データ流出を防ぐAIセキュリティ機能、および社内各システムとの連携機能を有する。

AI-Ready データ基盤

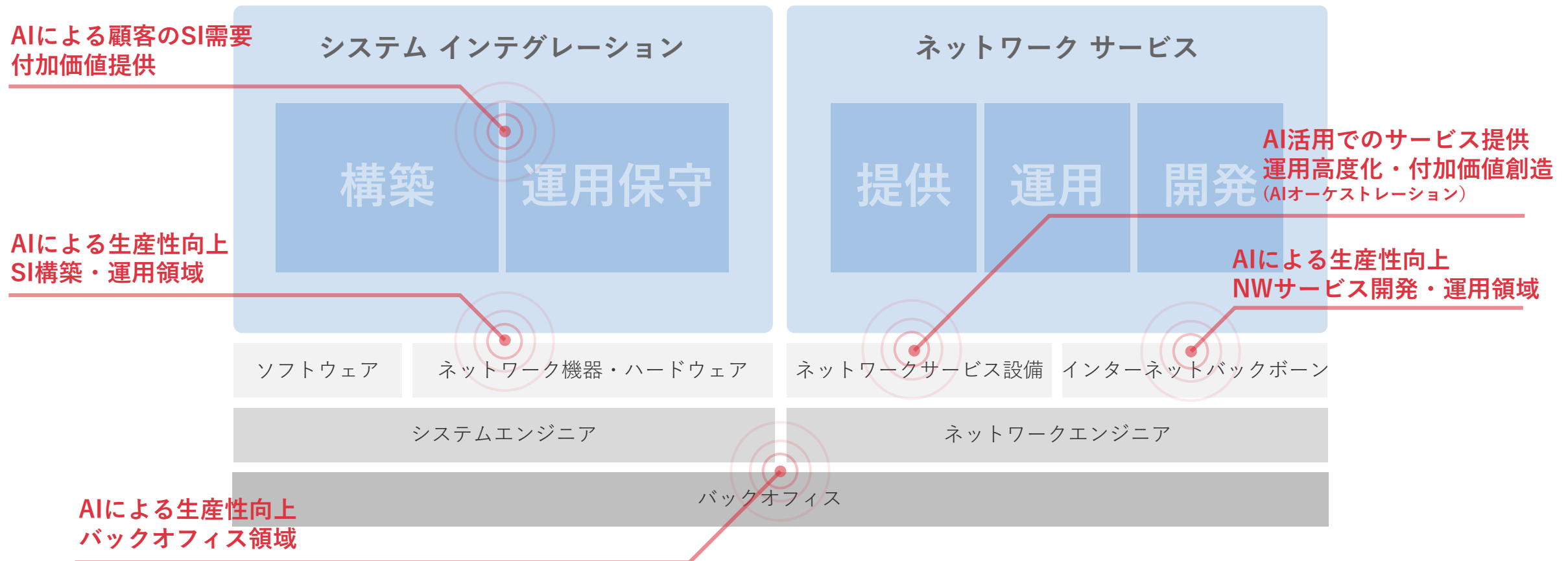
データ収集・加工・マスキング・証跡管理を標準化。AI活用の前段となるデータ準備工程を新たに開発し全社共通化する。

クラウドや社内の各システムに散在する業務データを集約・構造化することで、組織横断でAIが使えるデータを継続供給。

AIを活用したIIJオフリングモデルの高度化

ネットワークサービス事業者としてAI前提のサービスオフリングで付加価値創造し圧倒的なAI効果を楽しむ

FY2029末までに全社業務約30%のAI化をターゲット



注力事業領域



Security

AIを前提としたサイバーセキュリティ対策

技術的追従とセキュリティサービス高度化の実現

凄まじいスピードで進化するAI技術は、人間を遥かに上回るスピードと規模で変化しており、人の判断や従来のルールベースでのセキュリティ運用の限界を超えてきている。

新しいAIの登場で脆弱性対策の流れは大きく変わってきており、同様にセキュリティの各段階においてもその変化は必要となる。

IIIとしてはAIの進化を前提として受け止め、社会インフラ事業者として安全かつ持続的にサービスを提供し続けることを目指す。

- ✓ 新たな脅威に対する技術的追従と分析
- ✓ 加えて、今まで培ったセキュリティ運用を通じて蓄積された知見、技術情報、判断基準などをAIに取り込み、新たな脅威に対する自律的セキュリティ運用の実現
- ✓ また、コンサルティングやセキュリティサービスの高度化に繋げ、顧客システムにおける新たな脅威への対策を提供



Backbone

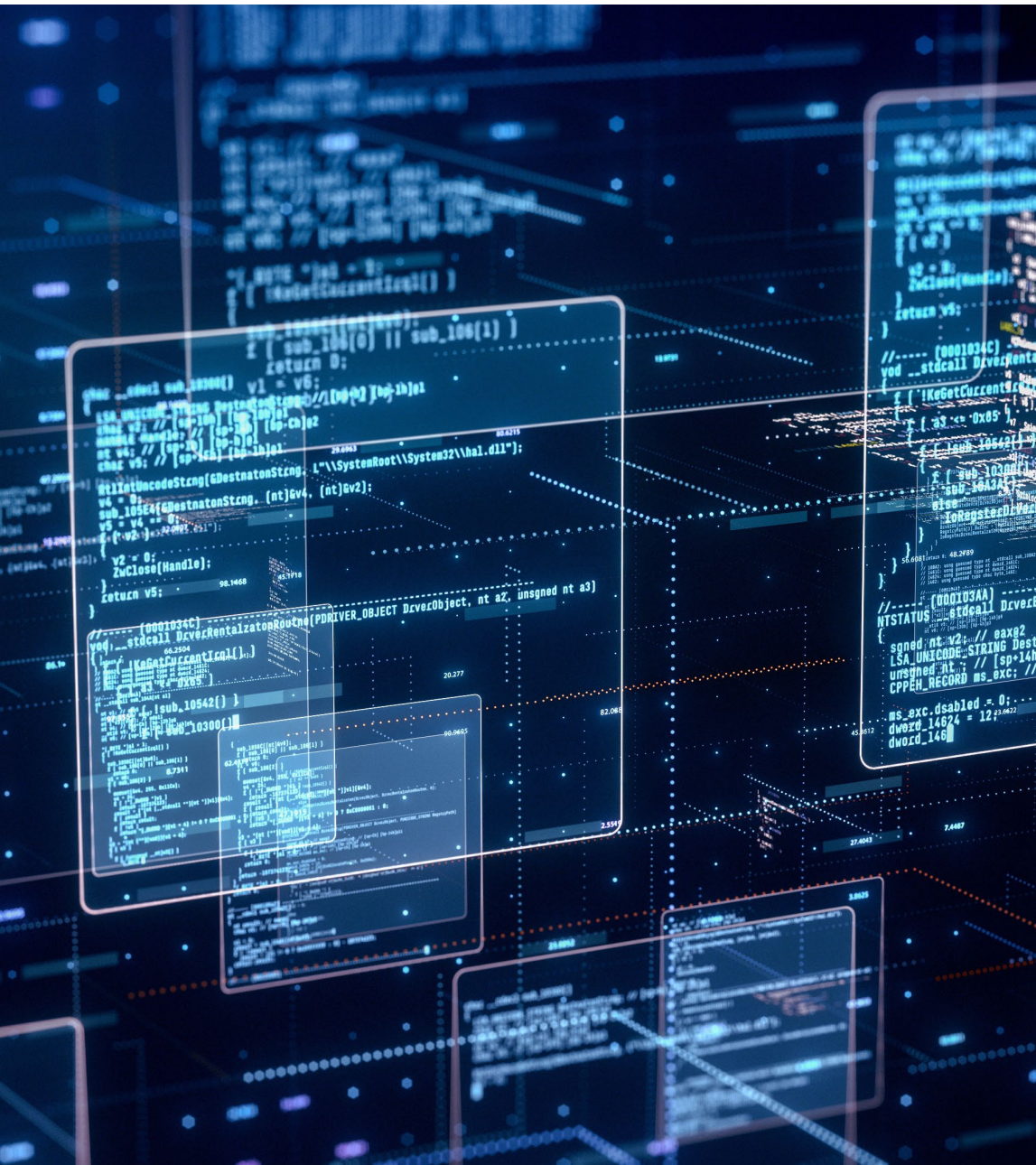
AIバックボーン

AIを安全＆継続的に動かすインフラ提供に集中

IIJはAIモデルの開発競争は行わず、AIを安全に・継続的に動かすためのインフラの提供に集中し、AI時代の社会インフラ提供者としてのポジションを目指す。

- ✓ ネットワーク：AI利用を前提とした大容量・低遅延なネットワーク
- ✓ クラウド：AI向けソブリンククラウド、およびPFCI*（PFN社製AI半導体ならびにAIプラットフォーム）との連携サービス
- ✓ データセンタ：AI基盤サーバの高発熱対応ができるデータセンタ
- ✓ エッジ・データセンタ：現場での低遅延な推論処理、データ収集のフロントエンドとしてのエッジ処理基盤ファシリティ（DX edge Cool Cube）を河村電器産業との共同開発にて実現。エッジデータセンタ分野においてエクシオグループとの業務連携。

*PFCI：Preferred Computing Infrastructure（IIJ、PFN、三菱商事による、AI向けクラウドサービスを提供する合弁会社）



Integration

自社実績を活かしたSIソリューション

IIJの「生きたAIノウハウ」をSIソリューション化

単なるAI導入支援ではなく、IIJ自身が大規模に適用し効果を実証した「生きたノウハウ」をSIソリューションとして顧客に対して、その価値を提供する。

- ✓ 顧客業務、特に情報システム部門における業務効率化、高度化をAI活用にて実現
- ✓ IIJ自社実績、および過去ユースケース実績をもとにしたオフアリング、導入コンサルティングの実施
- ✓ 全社AIプラットフォーム導入支援、IIJナレッジAIの提供



本書には、株式会社インターネットイニシアティブに権利の帰属する秘密情報が含まれています。本書の著作権は、当社に帰属し、日本の著作権法及び国際条約により保護されており、著作権者の事前の書面による許諾がなければ、複製・翻案・公衆送信等できません。本書に掲載されている商品名、会社名等は各会社の商号、商標または登録商標です。文中では™、®マークは表示しておりません。本サービスの仕様、及び本書に記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

